

陳情第42号	受理年月日	令和3年7月28日
付託委員会	保健福祉委員会	
件名	公的感染症専門病院の設立を求める意見書の提出について	
要旨	<p>明治から昭和の戦中戦後までは、日本の医療提供体制は感染症との闘いと言っても過言ではなかったが、栄養状態の改善や化学療法剤の誕生などにより、結核による死亡者が大幅に減少し、医療提供体制は感染症から成人病へと移行していった。</p> <p>現在、国内の病院数の比率は、民間病院の80%に対して公的病院は20%であり、感染症対策を主に担っている公的病院に過度の負担がかかっているのが現状である。</p> <p>また、地理的に島国である我が国は、戦後のパンデミックの脅威を逃れてきたが、観光立国を目指す国の政策により、今回のパンデミックが終息すれば再び多くの外国人が入国する。国は、パンデミックについては防衛政策と同じく有事と考えるべきである。</p> <p>ついては、大都市圏に公的感染症専門病院を設立することを求める意見書を国に提出していただきたい。</p>	